

チーム医療の紹介

第1弾

骨粗しょう症リエゾンサービス

地域連携・患者支援センター事務職 柳田 悠太 (やなぎだ ゆうた)

骨折で入院されたご高齢の患者さまは、全身の骨が脆くなっているケースが多く(脆弱性骨折)、骨折箇所が治癒しても、転倒や軽微な外力で再骨折や他部位を骨折される(二次骨折)ことがあります。そういった二次骨折を未然に防ぐ為に当院では右ページの通り、多職種連携によって骨折・転倒予防を行う取り組みを行っております。

この取り組みを骨粗しょう症リエゾンサービス(OLS)といいます。(リエゾンとは連絡係・連絡窓口・つなぎなどを意味するフランス語です)

OLSチームでは院内の連携はもちろん、開業医や様々な機関とも連携を図りながら患者さまのより良い生活を守っていきます。



骨折入院患者さまへの多職種による 聖隷横浜独自の骨粗しょう症リエゾンサービス

整形外科部長 人工関節センター長 竹下 宗徳 (たけした むねのり)

横浜市内で3つの病院のみ(2023年7月現在)導入している骨粗しょう症リエゾンサービス。ここに集う様々な院内の職種が連携して、それぞれの立場から、骨折入院患者さまに、骨折自体の治療だけでなく、骨粗しょう症の治療開始、骨折連鎖(二次骨折)の予防介入などを、積極的に活動しています。

幸い聖隷横浜は急性期から慢性期までの貴重なケアミックス型病院ですから介入継続が長いことも強みです。退院後は、いかに近隣の医院と連携して二次骨折予防を継続できるかも重要となります。

医師だけでなく骨粗しょう症マネージャー*をはじめとする多職種で、骨折入院患者さまにより適切なアドバイスが出来るよう、今後もチーム一丸で成長しつつ、院内だけでなく地域全体で健康な骨づくりを目指す聖隷横浜独自のネットワーク作りも、さらに盛り上げたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



*骨粗しょう症マネージャーとは…
骨粗しょう症の啓発・予防・再骨折の予防・円滑な治療を行うためのサポート(連携など)といった診療支援を行います。

看護部

看護師 田口 和美 (たぐち かずみ)

「骨粗しょう症」って知っていますか?

看護部では、西2病棟中心に、「骨粗しょう症リエゾンサービス」の介入をしています。

高齢者に多い「大腿骨頸部・転子部骨折」「椎体骨折」など、骨粗しょう症の関連がある骨折をした患者さまに、パンフレットを使い、骨粗しょう症についてお話しています。

みなさん、どこかで聞いたことがある「骨粗しょう症」、あらためて聞くことで新しい発見・知識を身につけることができます。

入院中に、骨粗しょう症の基礎知識から、薬・食事・運動など退院後の生活に活用できる知識を習得することができます。

「また、骨折したくない!」患者さまを応援する気持ちも込めて、活動しています。



薬剤部

薬剤師 安田 佳世 (やすだ かよ)

骨折の連鎖を薬で防ごう!

薬剤師の関わりは、骨折の連鎖を防ぐために骨粗しょう症治療薬を早期に開始することを提案し、当院作成のパンフレットを用いた服薬指導、副作用モニタリングをおこなうことです。

さらに費用・通院頻度・自己注射等を含め、患者さま一人ひとりにあった薬を選択することで治療の長期継続に繋げています。



リハビリテーション課

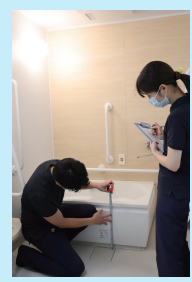
理学療法士 木村 航汰 (きむら こうた)

転ばぬ先の自宅環境調整

リハビリテーション課では運動指導の他、入院患者さまの退院後の生活の中での転倒予防にも力を入れています。高齢者の転倒事故の多くは自宅内で起こっていると言われております。

入院中から家屋調査シートを用いて患者さまのご自宅における実際の間取りや手すりの有無、段差の高さなどを記入していただき、ご自宅の環境を想定し、より近い環境での練習を行っています。

また、一部の患者さまに限りですが、退院前に患者さまとともに実際にご自宅に訪問し、動作や転倒危険箇所の確認、手すりの位置や福祉用具の調整も行っています。



放射線課

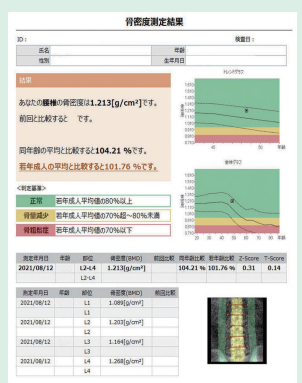
診療放射線技師 三枝 あかり (みえだ あかり)

骨密度検査はお任せください!

当院では、DXA法で検査を行っております。DXA法は骨粗しょう症診断において標準検査法とされています。

検査は5~10分程度、ベッドの上で寝ている間に終わります。結果は診察時に医師から説明があります。検査後すぐに解析を行い、同日中に診察を受けることも可能です。

ご自身の骨密度を一度チェックしてみませんか。



栄養課

管理栄養士 鈴木 文子 (すずき あやこ)

患者さま一人ひとりに合った食事を提案

入院中には、ご自宅での食事の様子を伺い、骨を強くするための食事のお話や、入院中の食事の内容について、その他不安に思っている事などのご相談を受けています。

入院中の食事はカルシウムを強化した食事を提供します。退院後も、病院食を振り返り、これからの食事についてアドバイスし、フォローをさせていただきます。



地域連携・患者支援センター

看護師 長野 加奈子 (ながの かなこ)

病診連携で骨粗しょう症治療継続を!

骨粗しょう症患者さまは約1280万人いると言われております。そのうち、治療されているのは約200万人と推察されており、治療継続率はとても低く、5年以内に52%が脱落してしまいます。

骨折の連鎖を止めるためにも、早期治療開始と治療継続がとても重要です。外来受診だけでなく、無理なく治療継続ができるように近隣のクリニックと連携します。

